

令和5年度松戸市立小金南中学校学校経営方針

【学校教育目標】

豊かな心と実践力をもち、自主貢献できる生徒の育成

【目指す生徒像(生徒目標)】 なりたい自分の姿のために「全力」「努力」「実践力」

－ 行動する －

- ◆主体的・計画的に行動できる生徒
- ◆自己分析しながら、自ら方向性を示し、粘り強くやりきる生徒

－ つながる －

- ◆人とのつながりを感じ、思いやりを持てる生徒
- ◆多様性を理解し、わかりやすく伝えることができる生徒

－ 創造する －

- ◆他者を認め、協働しながら新しいチャレンジができる生徒
- ◆自らの考えを広げ、次の学びにつなげることができる生徒

【目指す学校像】 持続的な幸せのために ～南中 well-being!!～

生徒が 『来てよかったと思う学校』 ～さわやかな挨拶と笑顔がたえない学校～
教職員が 『働けてよかったと思う学校』 ～地域とともにある学校～

【目指す教師像】 生徒たちそして自分たちのために「誠実」「丁寧」「迅速」

組織で、 － 共通認識をもつ －

- 報告・連絡・相談をチームで行う
- 職員室を風通しの良い雰囲気にする事で、誰もが意見しやすい環境を作る
- 互いの授業を参観し、お互いの良さに気づき、取り入れることで、より質の高い授業を提供する
- 保護者・地域と連携をして、一体となって問題を解決する
- 地域との交流を通して、自らが「地域の顔」として誇りと自覚をもつ

－ 危機管理をする －

- 教育公務員としての自覚を高くもち、不祥事根絶に取り組む
- 規範意識を身につけ、いじめや差別、暴力・暴言のない教育活動を推進する
- 教室・職員室など担当場所や机上の整理整頓を心がける
- 生徒指導のさ・し・す・せ・そ※ を全校体制で継続する

※ さ→最悪を想定して し→慎重に す→素早く せ→誠実に そ→組織で対応する

- 感染症防止について、常にアンテナを高くし、判断して、行動する
- 積極的に研修を受けることで、自らを磨いていく

－ 肯定的な(プラスの)声かけをする －

- 教職員から率先して、チャレンジを試みる
- 教職員同士において、褒める、認める声かけ(労いの言葉等)をする
- 互いの長所を生かせる職場作りを、互いに心がける
- 生徒の伴走者となって、生徒が自ら行動できるようにサポートする

【重点目標】

- 1 主体的・計画的に行動する
- 2 自己分析しながら、方向性を示し、粘り強くやりきる

■「基礎基本」および「表現力」を磨くための積み重ね

- ・基礎基本の知識の積み重ねを図る
- ・KMT(小金南中モーニングタイム)の充実と工夫をする
- ・言語活用の取り組みによる表現力(話す・書く)を磨くための工夫をする

■「誰もがわかる」授業の工夫

- ・授業で誰もが発言・活動ができるようにコーディネートする
- ・わかる授業を展開することで、学びの意欲を持たせる
- ・わかる授業により家庭学習の意欲を高めるような工夫する
- ・特別に支援が必要とする生徒への対応方法の検討を行う
- ・他教科の授業を参観することで、異なる視点から学び、専門性の質を高める
- ・授業アンケートや全国学力・学習状況調査を活用し、具体的な課題解決を図る
- ・数学・英語において少人数授業の展開と課題を明確にする

■目標を明確にした体力向上と食育の継続指導

- ・体育等の運動による体力向上を図る
- ・部活動への積極的な参加を推進し、目標を明確にした取り組みを工夫する
- ・給食における千産千消の取り組みと家庭科による食育指導の充実を図る
- ・「SAKURA メンバーズ」の取り組みの継続的な指導する

■自主貢献を目指した活動への継続参加

- ・地域との連携を大切にし、自己有用感を持てるような取り組みを工夫する
- ・多世代の人たちとのふれあいを充実させることにより、表現力を磨く機会をつくる
- ・地域の一員としての自覚が芽生え、自主的な貢献ができることで、自らの生き方を振り返る機会をつくる

- 3 人とのつながりを感じ、思いやりをもつ

- 4 多様性を理解し、わかりやすく伝える

■命の大切さへの意識の醸成

- ・道徳授業等を活用し、「命の大切さ」、「思いやりの心をもてる」授業や集会を展開する
- ・感染症拡大防止の観点から、命の大切さの意味を再認識させる
- ・人権問題において、SNS 等での誹謗中傷やいじめの原因となる問題について、積極的な生徒指導を行う
- ・教職員の不適切な言動(暴言・暴力・セクシャルハラスメント等)のない教育活動を行う

■ユニバーサルデザインの視点における環境整備

- ・誰もが安心して生活できる環境づくりを目指す
- ・気になる生徒の分析と組織で対応する
- ・専門家を招聘した研修会の実施と具体的な方向性の検討を行う

■学区内の学校および地域との連携の継続

- ・小金中学区内の小中学校との交流を継続し、中1ギャップ等の課題を克服させる
- ・地域の行事や展示会等に積極的に参加することで、地域の「顔」としての誇りと自覚をもたせ、自己有用感や自己肯定感を高める取り組みを工夫する
- ・「三世代交流会」を継続実施し、多世代の人たちと交流によって、生徒たちの思考力・判断力・表現力のさらなる向上を目指す
- ・「地域お助け隊」の活動を継続して実施する

■生徒会によるプラスワン運動と課題改善

- ・挨拶運動の推進、声かけ運動(プラスワン運動)の実施を検討する
- ・新しい標準服のルール、マナーを生徒とともに決定する場面を設ける

5 他者を認め、協働しながら、チャレンジする

6 考えを広げ、次の学びにつなげる

■「生徒に身につけさせたい力」のねらいと評価

- ・授業、行事等において、生徒自身が「何を感じたか」「何を学んだか」「どんな力が身についたか」を振り返る機会を設ける
- ・教職員が生徒の振り返りにおいて、助言できるように心がける

■WEBQU を活用した分析と人間関係の形成

- ・授業において、どの生徒も積極的な発言や活動ができるように教職員が「学びのコーディネート力」を習得する
- ・WEBQU 検討会を実施し、クラスの実態を学年職員と管理職で把握・分析する
- ・生徒指導部会や SC・関係機関との連携を図り、積極的な指導を実施する

■「他者と協働し、自ら見だし、方向性を打ち出す力」を持てるしくみづくり

- ・教える側、教わる側の意義や学ぶことなど、「協働する」上での本質を理解させる
- ・授業・行事へのめあて(目標)を明確に打ちだし、生徒自身が理解できるようにする
- ・生徒が「めあて」「評価」をリンクさせ、自ら振り返ることができる取り組みを工夫する
- ・他者理解を醸成させることで、人間関係や社会性・公共性を深く学ばせる取り組みを工夫する